

家庭系可燃ごみ袋中の雑がみ等排出状況調査

環境科学課 徳田三郎・小西友彦・財津修一・小林登茂子

第 43 回全国都市清掃研究・事例発表会

福岡市における家庭系可燃ごみとして排出されている紙類は、ごみ全体の約 35%（重量ベース）を占めており、その約半分がリサイクル可能な紙であることがこれまでの調査でわかっている。これまでの調査では、複数の世帯から排出されたごみを一つの試料として調査していたが、本調査では、1 世帯が 1 袋のごみを排出していると仮定してごみ袋 1 袋ごとの調査を行い、世帯ごとの排出状況を把握することを目的とした調査を実施した。

調査したごみ袋の 95.2%にリサイクル可能な紙が含まれていた。さらに、リサイクル可能な紙を段ボール、新聞、紙パック、雑誌及びそれら以外の「雑がみ」に分け、それぞれの排出状況を確認したところ、雑がみが含まれていたごみ袋の割合が 93.2%と最も高かった。ごみに占める重量割合では、調査したごみ全体の 14.7%がリサイクル可能な紙であり、そのうち雑がみの重量割合が 8.0%と最も高かった。1 袋に含まれていたリサイクル可能な紙の重量に対する袋数の分布は、100 g 未満が最も多く、紙重量が増えるにつれて段々と減少していく傾向であった。また、約半数の世帯から排出されたリサイクル可能な紙の重量が 200 g 未満であることがわかった。